

# 五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3  
TEL.426-3600 FAX.424-1474



「新春の田野浦港」

## ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 目 次 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

年頭ごあいさつ..... 2	冬の羽州路を訪ねて..... 6
新年のごあいさつ..... 3	支部行事風景..... 7
午年に因んで..... 4	支部規約の一部を改正..... 8
うま年生まれの私..... 5	午年生まれの方々..... 8
平成13年を振り返ってみて..... 5	会員報告..... 8
わが通勤路一万歩..... 6	

## 年頭ごあいさつ

和歌山支部長

米 田 弘



あけましておめでとうございます。

支部会員の先生方には、お健やかに2002年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は支部会務の運営につきまして、種々ご理解とご協力を賜わり心から厚くお礼申し上げます。特に旧年12月7日開催の20年ぶりの支部臨時総会には、年末のお忙しい時期にもかかわらず、多数のご出席を頂き有難うございました。お陰を持ちまして、提出議案を全会一致でご承認頂き、本年4月1日施行の改正税理士法も、支障なく運用できる運びとなりましたことは、支部執行部として深く感謝する次第であります。

さて、去年は、輝ける21世紀の初年と大きな期待を持って迎えた年でありましたが、不景気風は吹き止まず、その上、9月にアメリカで起こった不幸な出来事で、世界総不景気の嵐に見舞われたままの越年でございました。しかし今年には馬のような嘶きを持って、大いに飛躍する年になる期待をになつて迎えた午年、不景気風を大きく吹き飛ばして欲しいものです。

新年早々から例年のごとく、地区納税相談や年金者申告相談等の実施等を含め、税務援助対策事業や税務指導対策事業等々で、支部会員先生方には、種々お力添えを賜わらねばならない税繁期がやって参ります。特に本年から40年ぶりの申告書様式の改正などがあり大変とは存じますが、紙上を借りまして、ご支援、ご協力をお願いする次第であります。

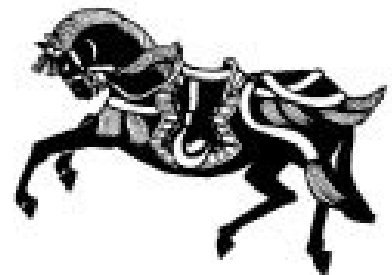
税繁期が終わりますと、いよいよ4月から改正税理士法が施行されます。裁判所への補佐人

としての出廷・陳述制度の創設、税理士試験制度の改正によるWマスター制度の廃止、書面添付制度の拡充、税理士報酬規定の削除等、我々税理士を取りまく環境が大きく変わろうとしております。その中で、特に、我々地方で税理士業を営むものにとって、一番大きな影響が考えられる税理士法人制度の創設は、予測のつかない変革の年になるのではないかと云われております。

どのような変革を迎えようとも、我々は、税理士法第2条に基づく業務を遂行するため、常に研鑽を重ねて業務の遂行に励んで行きたいものです。

支部としては、今後も支部独自の研修会を開催し、業務遂行上の糧となるよう会務の運営に努力する所存ですので、支部会員皆さまの一層のご協力をお願いする次第であります。

最後になりましたが、平成14年午年は、支部会員先生方の益々のご健勝とご事業のご繁栄の年となりますよう、お祈り申し上げまして新年のごあいさつと致します。



## 新年のごあいさつ

和歌山税務署長

沢 村 暁



新年あけましておめでとうございます。

平成十四年の年頭に当たり、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、税務行政の執行に対しまして、深い御理解と多大なる御協力を賜り、お陰をもちまして署務運営全般にわたりおおむね順調に推移いたしました。

紙面をお借り致しまして、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は御承知のとおり、1月には中央省庁等の改革が実施され、また、4月には情報公開法が施行されるなど、税務行政を取り巻く環境が大きく変わりました。

これは、行政の透明性・効率性の確保や納税者利便の一層の充実を図り、均一・均質な行政サービスの提供が求められているものであり、本年も引き続き納税者の視点に立った税務行政を進めていく所存であります。

ところで、最近の税務行政を取り巻く環境は情報化・国際化の進展に見られるように、経済社会が変化する一方で、IT不況、企業の倒産及び産業の空洞化による失業率の増加等激変化しております。

他方、国民の皆様の税に対する関心が高まっております。適正・公平な税務執行が一層求められております。

このような中で、税務当局といたしましては「適正・公平な課税の実現」と「期限内収納の確保」という私どもに課せられた使命の達成を図

るため、経済情勢に即応した署務運営に配慮するとともに、新しい目で物事を見つめ、状況を的確に捉えながら、納税者の皆様方から信頼される税務行政の確立に努めなければならないと考えております。

つきましては、近畿税理士会和歌山支部の先生方におかれましては、税の専門家として、また税務行政の良き理解者として、今後ともより一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

間もなくしますと確定申告期を迎えることとなります。本年は、所得税の確定申告書が40年ぶりに新しくなります。また、昨年同様「自書申告」の一層の定着にも努めてまいりたいと考えておりますので御支援の程よろしくお願い申し上げます。

終わりに臨み、新しい年が近畿税理士会和歌山支部のますますの御発展と、会員の先生方をはじめ御家族ともどもの御健勝、御多幸の年であることを心から祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。



# 午年に因んで

田 中 秀 俊

今年の干支は午、午年生まれの小生、年男と云われ一つ頑張ってみようかと思いましたが如何せん大正七年生まれの老馬、駿馬も老れば驚馬に劣ると、況んや生来の驚馬に於ておや、然して干支とは十干十二支の事、十干とは甲乙丙丁戊己庚申壬癸の十字、十二支とは子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二支、これらを組合せ六十日間の日を表わします。

それではいつ何処で考案されたか。日本へは中国から伝来したのですが、中国でいつ考案されたか、いつとは確かな事は判らないらしいが、殷代末期の卜辞（亀甲に刻まれた文字）に使用されている事から大概その時代かららしい、紀元前1300年位前になります。

十干は数を表わす文字ですが何を基準にしたか判らないらしい。十二支は黄道上の十二の恒星の符合であり、バビロンの十二還獣に起原し西方より伝わったようですが、中国では本来の天文学上の目的に使用されず、中国独自の卜占用等に用いられました。その起原について研究はされているが、学者によって諸説があるようです。

人生の節目として我が生涯の午年に何があったか、思い返して見る事にしました。

第一回目の午年は昭和五年、この年日本経済は大恐慌に襲われ満州事変の遠因ともなりました。その翌年六月二十七日直接原因の一つ中村大尉事件発生。陸軍参謀本部員中村震太郎大尉と井杉延太郎曹長の二人が、洮索地方蘄鄂公爺府で中国兵にスパイ容疑で捕えられ銃殺されました。これに対し日本は南京政府に抗議し、南次郎陸軍大臣はこの機に満蒙問題を解決す可く武力行使も辞さないとの声明をしました。次いで同年九月十八日柳条溝事件発生、満州事変へ

と進展。日本軍が満州全土を制圧し昭和七年満州国が生まれました。然しこの事件は関東軍の謀略で奉天独立守備隊の河本中尉が柳条溝の鉄道を爆破したものであり、後に国際連盟からリットン調査団が現地に派遣されリットン報告書を作成、これにより国際連盟会議に於て日本軍の満州撤退の勧告を受けるも拒否、国際連盟を脱退し、日本は国際的にも孤立していきました。

今の若い方達には満州と云っても知らない人が多いと思われますので一寸満州について書いて見ます。

満州とは中国東北地方の黒龍江省、吉林省、遼寧省の三省を中心にした地方の総称で、清初に当地方の住人女真人（ツングース系種族）が、自身等をマンジュ（満珠）と呼んで居った事により、そのように云われていたとの事ですが、崇徳一年（1636年）地域名、民族名、として漢字での表記に満州の文字が用いられましたが現在は満州と呼ばれて居りません。

第二回目の午年昭和十七年には私自身がこの満州に居りました。安東市を振り出しに、新京（長春）吉林、図們の各市所在の会社支店に勤めて居りましたが、昭和十八年十一月に親しくして居った中国人が再々この戦争は日本が負けますよと云うようになり、政状混乱の中で成長した彼等は我々よりずっと保身についての判断は確かであるのは承知して居ったので、独身者の気楽さ、内地へ帰れば又軍隊に召集されるのは判って居りましたが、もし日本が勝ち且つ命があれば又来れば良いわと、辞表を出し帰りましたが、敗戦その後は満州へは行って居りません。

日本内地に帰り両親の元に居れたのは三ヶ月で、又軍隊に召集、二度目の軍隊生活に入りましたが、前回は中国山西省南部黄河々畔迄行きました。次回も亦中国ですが南部の広州地方でした。高射機関砲隊でしたので、珠江を航行する舟艇に搭載防衛に当りましたが、アメリカ空軍に散々攻撃され多数の犠牲者が出ました。

終戦に依り十ヶ月程捕虜生活を送り昭和二十

一年五月に浦賀に上陸家に帰りました。

第三回目以降の午年については、特に思い出すような事もなく、平々凡々有耶無耶に六十年を過したような気がします、振り返って見ると、平凡な日々こそが幸せな時であったと思います。

これが七回目の午年、八十四歳を迎えての感想です。

## うま年生まれの私

千葉 昭

馬と聞くと、すぐに、駿馬、天馬、駄馬、驚馬等の言葉が思い浮かびます。さて私は、どの馬に当たるかと申しますと「駄馬」と思います。

「駄馬」の言葉の意味は、1、荷をつけて運ばせる馬、2、下等な馬、等になっています。私は、使い減りのしない荷馬車引きの馬（駄馬）と思っています。

振り返って見ますと、昨年7月堺署を最後に退官しましたが、40年間大きな病気もせず無遅刻、無欠勤で、無事勤めることが出来ました。まず第一番には、丈夫に育ててくれた両親に感謝し、それから良き環境に恵まれたこと。(職場の先輩、同僚、後輩等)最後には、健康に注意してよく努力し頑張った自分自身を誉めてやりたいと思っています。

最近、亀という動物・言葉を好んでおります。「ウサギとカメ」の話のように最後には、カメが勝利しております。

山登りが好きで、特にハイキングにおいては、「亀の心境」が必要です。ゆっくりあせらずマイペースで、一步一步地面を踏みしめて歩くということが大切です。ハイキングに興味、趣味のある方がおられましたらお声を掛けてください。万障繰り合わせて参加します。

諸先生方には、毎日のお仕事で運動不足となっておられると思いますので、休日にはゆっくり、のんびりと歩いてみてはいかがでしょうか。

## 平成13年を 振り返ってみて

水城 齊美

寒さ厳しい折、皆様お変わりないでしょうか。

さて、改まった文章を書くのは何年ぶりであろうか。先日、思いもかけない原稿の依頼を受け戸惑ってしまった私ですが、こうしてパソコンに向かいながら一年を振り返るのも悪くない気分であります。主人と事務所を開業したのが平成12年12月、早一年になります。この業界では忙しい時期に差し掛かり、最初の半年は無我夢中だったように思います。当時一歳の子供を保育園に預けるのは多少不安もありましたが、お蔭様で今では喜んで通っています。事務所の方も順調で(?)6月に事務員の募集をかけ、今では大黒柱となって仕事に励んでくれています。

私はといえば、二人目の子供の妊娠が発覚したのが8月末、それ以来3ヶ月辛いつわりに悩まされ仕事も休みがちになりましたが、今ではふっくら子ダヌキのような可愛い(?)体型をしております。予定日は5月4日、ゴールデンウィーク真っ最中です。残念ながら愛子さまとは同級生になれませんでした。春には対面するであろう我が子の為にも、今年目標をたてて充実した一年にしようと思いつつ、具体的にはといえば、‘毎日を笑顔で過ごす、としか思いつかないのが本音であります(苦笑)。

昨年は、関西では子供が犠牲となった悲しい事件がありましたが、今年は皆様が健康で明るく過ごせますようお祈りしております。

最後に、今ではすっかりおねえちゃん気取りになった2歳の娘と、最近お腹の具合を少し気にし始めた主人と共に、私は子ダヌキから親ダヌキに変わっていく我が身を見つめながらこれからの確定申告を奮闘したいと思っています。



## わが通勤路一万歩

木村光男

朝、自宅を出ると和歌山城を右前方に、左に岡公園、弁財天社、武徳会館、松生院(寺)、刺田比古神社(岡の宮)、珊瑚院(寺)、和歌山市営真砂浄水場、和歌山市営中央保険所、和歌山市夜間急患センター、無量光寺、延寿院(寺)、大泉寺、和歌山県立桐陰高校、青陵高校、陵雲高校で道半ば。

妙泉寺、宇須井原神社、生長の家会館、高松禅寺、和歌山厚生年金福祉センターサンピア和歌山の前のわが事務所へ 四千五百歩

帰りは、左に和歌山県立図書館、きのくに志学館、和歌山大学松下会館、和歌山市営今福共同墓地、忠霊塔、正面に日本赤十字和歌山医療センターの高層ビルを、右に天理教和歌山教務支庁、蓮心寺を経て寺町通りに。

左右に妙法寺、本光寺、三光寺、法泉寺、恵運寺、護念寺、窓誉寺、大恩寺で寺町通りに別れて、和歌山西警察署、報恩寺、和歌山市立岡山幼稚園、和歌山大学教養学部、附属小学校、中学校、和歌山県立博物館、近代美術館を経て、日本一環境の良いとされている三年坂通りへ、左に和歌山城、右に和歌山市立児童女性会館を経て、わが家に、五千五百歩、合せて一万歩、冬でも汗ばみます。

一風呂浴びての冬は熱かん、夏はビールでの晩酌は至福のひとつときです。

## 冬の羽州路を訪ねて

川口美由起



11年の2月、連休を利用して山形と秋田を訪れた。初めての真冬の旅である。

1日目…昨夜大阪を出発した寝台特急日本海は明け方、山形へ入る。ブルートレインの窓の外は一面の雪。眠気も覚めるほどの鮮やかさ。最初は鶴岡を歩いて巡る。名曲「雪の降る町」が生れた処。絵ろうそく、御殿まり、いずめこ人形の民芸店が並ぶ昔ながらのたたずまいに、カトリック教会を始めとする洋館群が溶け合う。芭蕉乗船所、学校給食発祥の地でもある、しつとりと落ち着いた街である。今夜の宿は吹浦。駅には様々な夕陽の絵葉書が展示。あいにく曇天のため夕日は望めず。しかし冬の日本海の荒波を満喫した。夕食はイキのいい海の幸が揃う。とくに寒鱈の身を丸ごと煮たお味噌汁、庄内特産の赤かぶ漬が最高。

2日目…羽越本線を更に北上、秋田に向い、秋田新幹線こまちに乗りかえた。後退して走りだす電車で皆が驚く。スイッチバックである。田沢湖に到着。ルリ色に澄む厳冬の湖は本当に幻想的。青々とした空に雪化粧した駒ヶ岳が聳える。人影まばらな湖畔の売店。お昼のつもりが適当なものはなし。カップめんを店内で食した。立ち去ろうとする私に「ゆっくりしときんさー」とお爺さんの優しい声。乳頭温泉郷行のバスは高度を増しながら山道を上る。妙乃湯降車。木造りの一軒宿の部屋にはテレビも冷蔵庫もない。暖炉の灯る洋室にて夕食。一つ一つ心の籠った繊細な料理は、器までもが工夫されていた。働く人達の温もりに触れ熟睡。

3日目…ゆたんぼ入りの座蒲団に座り和室で朝食。涌き水で炊いた御飯が美味しくて思わずお代り。本日は大雪。除雪車に誘導されつつバスは乳頭山を下る。再びこまちに乗り大曲へ。

次に乗った奥羽本線は吹雪のため外は白一色。まもなく後三年駅到着。奥州藤原氏誕生の契機となった後三年の役の舞台となったところ。戦いの跡に建つ資料館を見学後、貴重な小冊子を戴いた。ますます強くなる雪。館長さんがバス停まで足場を築いてくれたものの、雪が膝まで被り、すこぶる寒い。ようやく来たバスも難航のすえ石坂洋次郎記念館へ辿りついた。丁寧な説明を受け、有意義な時間がゆったりと流れる。この日はかまくら祭の前々日。屋外に作られたかまくらにそっと入ってみる。傍らで秋田犬が首を傾げ、こちらを見ていた。横手駅前泊。窓から下界を見おろせば、雪の中を行き交う人や車。さながらミニチュアのように映った。

4日目…早朝の特急に乗車、一気に北山形まで南下だ。雪は小降りなのに徐行運転。定刻より一時間遅れた。ここからはローカル左沢（あてらざわ）線を体験。2両編成の車窓からの景色は、枯木が林立する銀世界の果樹園。寒河江で降りた。ホームの目印はチェリー型。さくら

んぼの里にピッタリ。でも目的は雪中いちご狩。ビニールハウスの中で苺を食べた。オーナー言わく「イチゴは冬場が一番おいしい。それは花から実を生むまでの期間が長いから」と。なるほど、とても甘くて上品な味。品種は栃乙女とのこと。その後、慈恩寺参拝。雪の三重塔がひとときわ美を放つ。和尚さんのユーモラスな語りや床の冷たさも和らいた。帰路は山形新幹線つばさ、そしてひかり号に乗りつぎ京都へ。

数日後、写真を送ったお礼に石坂記念館から一枚の布が届いた。そこには「小さな完成よりも、あなたの孕んでいる未完成のほうがはるかに大きいことを忘れてはならないと思う」（若い人より）と書かれた言葉が。素敵な旅の贈り物である。

私にとっては魅力溢れる、みちのくへの一人旅も延べ50日に達する。旅先で綴った日記から作成した幾つものアルバムには沢山の思い出が詰っている。日常の人々との繋がりと同様、旅することも心の糧としていきたい。

## 支部行事風景



優良事業所見学、神戸方面研修旅行/H13.10.5



ボウリング大会/H13.10.18



支部臨時総会/H13.12.7



年末懇親会/H13.12.7

## 支部規約の一部を改正 臨時総会で承認可決される

旧年12月7日(金)午後4時から、和歌山市屋形町2丁目10番地ルミエール華月殿において、出席者179名(内、委任状出席者87名)をもって和歌山支部の臨時総会が開催された。

この臨時総会は、昨年5月25日に成立した改正税理士法が本年4月1日から施行されるのを受けて、支部規約の一部を改正する必要から臨時に開催されたものである。

服部潔幹事の開会宣言を受け、開会の挨拶において米田弘支部長が本日の臨時総会を開催するに至った経緯等の大要を説明。続いて岡田将生副支部長による総会成立宣言を了した後、勝田晃夫氏を議長に選出して議案の審議に入った。なお、議事録署名人には寺浦正周氏と辻勝氏が選ばれた。

当日の上程議案は、支部規約の一部を改正する件のみの一つだけであって、支部運営の基本となる重要案件について出席者の熱心な討議があり、中でも第28条支部会費に関する件に質疑が集中したが意見が出尽くしたところで採決の結果、出席者全員の賛成により支部規約の一部が改正された。

なお、臨時総会に引き続いての恒例の年末懇親会は、福引き抽選をするなどして大いに盛り上がった忘年の会となった。

### 午 年 生 ま れ の 方 々

(生年月順・敬称略)

大正7年生	田中秀俊						
昭和5年生	塩路孝雄	南部昌道	山田 穰	木野利一	橋五一	西川 享	
	木村光男	和田豊彦	藤原剛治	小谷 匡	栗原和美		
昭和17年生	寺田憲治	稲田稔彦	増田 裕	千葉 昭			
昭和29年生	風神正典	成川 茂					

## 会員報告

会員数 平成14年1月1日現在 233名

### 退 会

赤羽 一徳(死亡) 平成13年10月6日

## ◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆

新年おめでとうございます。

皆さまには、めでたく新春を迎えお慶びのことと思います。

二十一世紀がスタートした昨年は、永い不況に加え各地で痛ましい事故や事件も多く慌ただしく過ぎ去った気がいたしますが、今年はどうなることでしょうか。

明るく住みよい社会を構築するための経済・社会の構造改革は、スピードをもって進められることでしょう。新年の干支「午」に因んで馬く走ってくれるものと期待しましょう。

いよいよ、改正税理士法が施行されます。規制緩和等の流れの中で、我々の業界にとってもフォローの風が吹いて欲しいものです。

さて、支部報「五十五万石」第13号を発刊するに当たって、今回も多くの方々から投稿していただきありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

本年が皆さま方にとり幸多き年でありますよう心からお祈り申し上げます。

広報委員 山本 九鬼 竹田